

○帯状疱疹予防接種をご希望の方へ（必ずお読みください）

帯状疱疹予防接種説明書

1. 帯状疱疹について

帯状疱疹は、水ぼうそうにかかった後、体内に潜伏する水痘帯状疱疹ウイルスが、加齢、疲労、免疫抑制などで再活性化し起きる病気です。体の左右どちらかに、帯状に、時に痛みを伴う水泡ができ、皮膚の症状が治った後に痛みが残る「帯状疱疹後神経痛」という合併症になることがあります。予防接種は帯状疱疹や合併症に予防効果があります。

2. ワクチンについて

接種可能なワクチンは2種類あります。身体の状態によっては、接種できない方もいるため、かかりつけ医にご相談ください。

種類	生ワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」	組換えワクチン シングリックス筋注用
接種方法 回数	皮下注射 1回	筋肉内注射 2回
接種間隔		2か月以上の間隔を置いて2回接種 ※1
接種できない方	病気や治療によって、免疫が低下している方は接種できません。	免疫の状態に関わらず接種可能です。
接種に注意が必要な方	輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後3か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後6か月以上置いて接種してください。	筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方は注意が必要です。
予防効果	接種後数年～10年程度でワクチン効果が減衰すると考えられる。 ※2	接種後10年以上有効性が持続するとの報告がある。 ※3
接種後1年時点	6割程度の予防効果	9割以上の予防効果
接種後5年時点	4割程度の予防効果	9割程度の予防効果
接種後10年時点	—	7割程度の予防効果

※1 病気や治療により、免疫の機能が低下したまたは低下する可能性がある方等は、医師が早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔を1か月まで短縮できます。

※2 第26回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会ワクチン評価に関する小委員会

※3 第21回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会ワクチン評価に関する小委員会

3. 接種を受けることができない人

- ①明らかに発熱（37.5度以上）のある方
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③このワクチンの接種液に含まれる成分でアナフィラキシー※4を呈したことがあることが明らかな方
- ④その他、医師が不適当な状態と判断した方

※4 アナフィラキシーとは、接種後30分以内に顔が腫れる、全身にじんましんが出るなどのアレルギー反応のこと

裏面に続く

4. 予防接種を受ける際、注意しなくてはならない人

下記に該当する方は接種前に医師にご相談ください。

- ① 基礎疾患（心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患など）のある方
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱の見られた方および全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある方
- ③ けいれんの既往のある方
- ④ このワクチンの成分に対してアレルギーをおこすおそれのある方
- ⑤ 過去に免疫不全の診断がなされている方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方

5. 帯状疱疹ワクチンの安全性

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

主な副反応の 発現割合	生ワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」	組換えワクチン シングリックス筋注用
70%以上	—	疼痛
30%以上	発赤	発赤、筋肉痛、疲労
10%以上	そう痒感、熱感 腫脹、疼痛、硬結	頭痛、腫脹 悪寒、発熱、胃腸症状
1%以上	発疹、倦怠感	そう痒感、倦怠感、その他の疼痛
頻度不明	アナフィラキシー、 血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎	ショック、アナフィラキシー、 ギラン・バレー症候群

6. 他のワクチンとの同時接種・接種間隔

どちらの帯状疱疹ワクチンについても、医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザワクチンや新型コロナウイルスワクチン、肺炎球菌ワクチン等の他のワクチンと同時接種が可能です。

ただし、生ワクチンについては、他の生ワクチンと27日以上の間隔を置いて接種してください。

7. 予防接種健康被害救済制度について

定期の予防接種の副反応により、医療機関で治療を必要としたり、生活に支障が出るような健康被害が生じたりした場合には、予防接種法に基づき救済を受けることができます。給付申請の必要が生じた場合は、感染症・医務薬務課までお問い合わせください。

*救済の適用を受けるにあたっては、健康被害が、予防接種によるものなのか因果関係（接種前後の他の感染症や要因等）を調査したのち、予防接種によるものと認定される必要があります。

8. 接種後の注意事項

- ① 接種後30分間は、急な副反応が起こることがありますので、安静にしてください。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ② 入浴は差し支えありませんが、接種した部位を強くこすることはやめましょう。
- ③ 当日は、激しい運動や大量の飲酒（それ自体が体調の変化を来す恐れがあるため）は避けましょう。
- ④ 接種を受けた部位が赤くなったり、痛んだり、軽い発熱が起きることがあります。
体調に異常を感じた場合は、すみやかに医師へ連絡してください。

問い合わせ先：岐阜市保健所 感染症・医務薬務課

電話058-252-7187 FAX058-252-1280